

フードバンクによる生活困窮者のセーフティネット構築（NPO）

【助成事業の概要】

生活保護などの公的支援を受けられない制度の狭間の生活困窮者などへの支援を行うため、地域の企業や商店、農家あるいは一般家庭より、品質に問題はないが包装不備や賞味期限が近付いた食品の無償提供を受け、支援が必要な方々へその食品を供給する「フードバンク」を行っています。



【助成金の使途】

支援を必要とする方々への支援物資の配送経費や支援物資の回収のための中古車両購入に利用。

【助成事業の成果】

行政において今まで支援が届かなかった方々に対して支援が届いたという実績により、行政の信頼を得て、市内にとどまらず県内全域に活動範囲が広がっています。支援の中で見えた課題から、フードバンクを通じて繋がった生活困窮者の方々の居場所づくりを開始し、就労につなげていくなど、活動の幅も着実に広がっています。

生活困窮世帯の子どもたちへの学習支援 ～貧困の連鎖を断ち切る～（NPO）

【助成事業の概要】

生活困窮世帯であるために、十分な学習環境を持っていない子どもたちに対して、大学生などのボランティアを活用した無償の学習支援を行っています。また、成長過程にある子どもたちが十分な栄養を摂れるよう、フードバンクを実施する団体と連携し、食品の提供を併せて実施しています。

【助成金の使途】

学習支援で利用するテキストや、学生ボランティアが学習会場まで移動する際の交通費などに利用。

【助成事業の成果】

大学生を活用したこの取り組みは、子どもの学習意欲の向上や子どもたちに相談、集いの場の提供につながっているという実績をあげています。また、生活困窮世帯の子どもは将来生活困窮に陥る可能性が高いため、貧困の連鎖を断ち切ること課題している行政にも注目されています。



生活困窮者への緊急支援（炊き出し、相談、シェルター）から伴走型支援へ（NPO）

【助成事業の概要】

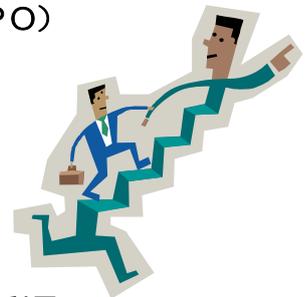
失業、多重債務、家庭問題等の様々な問題を抱えホームレス状態にある方々、ネットカフェ難民、路上生活に陥りそうな生活困窮の方々への支援を行うため、生活・健康相談、食事支援、緊急宿泊所の提供などを行いながら、自立に向けた伴走型支援を行っています。具体的には、要支援者のステージに応じた公的支援の手続き補助や不動産業者との連携による住居の確保、就労体験、ハローワークへの同伴、そして雇用創出も行っていきます。

【助成金の使途】

巡回、炊き出し、緊急宿泊所の設置・運営、個別相談、集いの場の設置などに利用。

【助成事業の成果】

これまで行われていた活動の認知度が上がることによって、伴走型支援を行ううえで必要な地域の他の社会資源との連携が進んでおり、地域における助け合いが着実に広がっています。



若者ホームレスの自立支援に向けて（NPO）

【助成事業の概要】

リーマンショック後、20代、30代の若者がホームレスとなりやむを得ず支援を求めるケースが急増しているが、そういった若者を支援する体制が少ないことから、様々な分野の支援団体が連携し、問題解決に取り組むネットワークを構築することを目指しています。具体的には、ホームレス支援や若者支援に関する有識者によりネットワーク委員会を構成し、その中で現状の課題や必要な支援を検討しながら、公開会議や報告書などにより情報発信を行っています。

【助成金の使途】

ネットワーク構築のための委員会の開催経費や公開会議開催、報告書作成などに利用。

【助成事業の成果】

この事業がマスコミ等でも取り上げられたことや、公開会議にも多くの一般市民の参加者が得られ、多数の問い合わせを受けるなど、問題解決への裾野を広げています。また、異なる分野で活動する団体が、実は地続きでそれぞれの問題が深く関わっており、ネットワークを組むことでより良い支援が可能になるという気づきを共有することで今後の活動へのヒントを得るという相乗効果を生んでいます。さらには、助成後に事業で出た課題を踏まえて実際の就労支援につなげています。

